

磐城大衆新聞

毎月二回一日十五日
定價一部十錢
廣告料一行五十錢
發行所 磐城大衆新聞社
長谷川兵衛

人生と失敗

人生は失敗の歴史なりと言ふべきである。或は失敗によりて得たる経験によりて成功する歴史とも言へる。

學生が、初め或科目を嫌ひ、愈々試験に失敗して、已れがこれに適應しないことを知つて、他方面に自己を適用する途を見出し、却つて大いに成功せる例も少なくない。彼の有名な發明家エドソンが、八歳の時初めて小學校に行き三ヶ月ほど通學する

業礎堅確なる本店銀行の創立

磐城、平銀、磐越、磐實等の地に狂奔しつゝある、是れ等の郷土生え抜きの本店銀行は合併銀行支店が金融業本來の使命を、組織變更等によりて解消果しつゝあるは勿論ではあるが、茨城、仙臺、福島等よりの純生石城人の手により一大銀行支店銀行が勢力を張り預金の吸の創立を念願してやまぬ。

平市創建に直面して

目まぐるしき町勢進展

過去半世紀への一見

維新四天の當時、五萬石の小常時日本の國運民命を双肩に擔落たる磐城平藩主安藤對馬守はふたの大英雄であつた。

尊王攘夷、勤王佐幕と甲論乙駁、此の英雄の没後平藩は逆運に於ける動亂騷擾の明治維新直前、見舞はれ、藩士の面々は四方に内外多事多端の日本外交の柱石離散し、生活苦を満喫した。として又當面の責任者として非從つて、かつての五萬石城下

平町の衰微は言語に絶した。此の一大逆境より轉向して商新して新文化の平町となり町勢の發展は飽和状態に達した。自動車は四通發達し、電話數八百を數へ、電燈、瓦斯、第一、第二、第三の小學校、中、女學校より産婆看護婦學校に至るまで諸般の文化設備は整へられ、教育機關は充實した。

年次	人口	戸數
明治卅四年	九,〇〇二	一,九〇一
明治四十年	一三,四九五	二,六〇〇
大正六年	二〇,八四四	三,四四二
大正十五年	二五,四四六	四,六〇二

即ち明治卅四年より大正十五年迄人口増加は約二倍八分強といふ驚異すべき進展の記録を示してゐる。

人衆片々

●某町の町長の如きは事務多忙か、町長室に居つた事がない。その助役が大コソコ。開く處に依ると月一、二回上京の由。然し自己使用のみ、費用は全て町費を費消する。

●此の町長ありて町民ありか。此の町長を町民の代表者として置く事が果して町民の利徳であるか。

●何れにしても町の經濟上吾等町民としての經濟上大問題である。

●然るに此の種の町長を町の理事代表者として置くよりむしろ一日も早く後任町長を選定し得る事が町民としての賢明の一策である。

●一般町民として此の横暴と悪徳極まる町長をして徹底的に

關内藥局

平町四丁目

第一流人物の町政參加を望む

第一流人物は政界の濁流に泳物は町政の現實に活躍せず、第一流人物が一角の政治家を望まず、超然たるは國政に顔して暗躍明動する傾向がある。於ても、縣政に於ても、町村自治政体に於てもその傾向歴然たるものがある。

我平町に於ても所謂第一流人物の躍起を望む。

柴山流 盤景宗家 上巻 師範家 高橋女史

一室に五洲の名山奇勝を眺め、等より見て繪畫の長と彫刻の長物の上手なれ」とある通り此の坐ながらにして萬里の洋上曠野を兼ね備へたるものと見られ道に入られた人々には既に斯の遊び、嚴寒肌を刺す冬の日も、又實用の上から申しまして道に必要な天與素質を有せらるる温き南國の情緒に酔はせ、暑熱でも時機に應じて換へる事の出、事と思ひますが、製作の自由、これ皆盤景の持つ力であり得る。更に又藝術的方面から多き賢明な途であり得る。幸に時間と要する事少く、又其の表現の自由と立體的である。人も快哉の妙境に潤り得、そし宜しく研鑽を積まれん事を。

「ホムム」本社は其の裏の罪惡を嚴密に調査し以つて一般町民に知らしむる事にした。

●此の町長が町民の大代表である以上町の發展は見込みが、町は益々くらくなるばかり。

●平町某西洋料理屋の如きは最近發展の途上にあるが、全てが暴利で評判が悪い。

●平町某藥種屋が大亂賣して居る事を仄聞して實に驚くが、果して事實か。然し同業者連が知つて知らぬふりをして居るところを見るこそうでもないやうな感じもする。

●平町某通信記者が某組合に訪れて曰く今後平町地方近所に如何なる主催あり招待されても平町の週刊記者と同席する事は絶対に御断するとか。

●某通信記者が果して社會の「モクタク」が、然し其の通信記者が其の裏に罪惡はないか。然し時機の問題であるが、此の卑劣極まる惡徳記者をして真相を調査後日發行の紙上に報導する。

●平町花柳界邊での常習犯某町議、再審は町會議員であるが、某料理店の一室で新妓を前に置いて一聲演じた迄ではよかつたが、此れも一山五錢の町議かと藝妓が笑つて居つた。

●平町近在を根城として民衆を苦める三百、惡徳高利貸し高証文を以つて再度の請求、高利貸しを本業せず、婦女子を言を弄して誘惑せる實に非道徳極まる此の種の奴を嚴密に調査し以つて社會より其の筋によつて「ホムム」考である。

●向は本社發行の刊行物一面に「デナイ」其の事を常習犯せる鬼物を徹底的に叫喚する。

●農工銀行平支店長館氏は事務多忙と見えて如何なる日も午

て其寫實の妙に至りましては坐ながら、山川風景を目のあたり之を髣髴せしめ、ひしひと美意識に迫る。其雅緻妙趣は美に他に之を求めざる事は出来難いと思ひます。誠に想へ、一切の雜念を捨て無我の境に構想し製作し鑑賞する、時世の悞れを忘れ、生活の鬱を忘れ、唯善唯美。これこそ私共同好に與へられたる至大の悦樂境でありませう。

此の境地にこそ私等の宵美的情操は涵養せられ引いては品性の陶冶となり、人格の向上に資せらるるものと思ひます。「好こそ道に必要な天與素質を有せらるる事と思ひますが、製作の自由を得るまでは矢張り先人の進まされた道に従ふのが少くして功多き賢明な途であり得る。幸に時間と要する事少く、又其の表現の自由と立體的である。人も快哉の妙境に潤り得、そし宜しく研鑽を積まれん事を。

前七時より午後七時半迄で、行員と共に事務に精勵されて居る。正義は最後の勝利者である。正義人道を重んずる高潔の人格者を選べ。

●醫は仁術なりと云ふ。醫師諸君よ親切なれ。

●日用品の全部の合法的の値下自發的に決行されたし。殊に理髮料、活動館入場料、豆腐、酒、味噌、醬油等を。

●某町の現町長並に前町長の人格と手腕の点に於て果して現町長は如何。

●一般大衆は勿論町會議員の一部は、現町長に對するの批評が高。然るに現町長に對する隣村の村長村議諸君が非常なる反感を以て「一期はどうか。何れにしても一期はどうか。二期は満場一致推す人はあるまい。

